



TOYAMA
UNIVERSITY
HOSPITAL

富山大学附属病院だより

信 頼

特集

これからの富山大学附属病院

ひとりひとりの糖尿病患者さんに合った治療をめざして 糖尿病センター開設にあたって

臨床研究管理センターの活動 新しい医療の開発に向けて

看護師特定行為研修センターのご紹介

連携病院のご案内「あさひ総合病院」

食と健康「食欲が減退する夏に向けての食事」

読むくすり箱「血液をサラサラにする薬には2種類あります。」

スタッフステーション

病院からのお願い

「フラワースマイルホスピタル」活動について

季節のご挨拶

病院までのアクセスについて

かわら版

TOYAMA UNIVERSITY HOSPITAL

Vol.

139

2019年7月発行



これからの富山大学附属病院

皆さま こんにちは

今年の4月から新しく富山大学附属病院長になりました林 篤志です。

私は12年前にアメリカより富山大学眼科学教授に着任し、これまで眼科の発展のために努力してきました。また3年前から経営担当副病院長として齋藤前病院長のもと、附属病院のさまざまな課題に取り組んできました。しかし、まだまだ改善していくところがあると思っていますので、これからも皆さまと一緒に考えながら、皆さまから愛され、信頼され続ける富山大学附属病院にしていきたいと思えます。

今取り組んでいること、また今後取り組んでいくことについて簡単にご紹介したいと思います。

1) 患者さんに優しい病院に

これまでも病院職員は、患者さんに対して思いやりの心と寄り添う心をもって医療に取り組んできました。これからはますます頑張りたいと思えます。また、病院に来られた際に少しでも心が安らぐようなホスピタルアートを何かできないか検討中です。

富山は雨が多いので、傘をお忘れになった患者さんのため、駐車場と病院の間で利用できる共用の傘を用意しました。立体駐車場入り口と平面駐車場のゲートの傘立てにありますので、雨が降ってお困りのときはぜひご利用ください。病院玄関にも傘立てを用意しています。お帰りの際にも駐車場までご使用いただけますので、駐車場のゲートの



病院長 林 篤志

傘立てにお返しく下さい。皆さんが気持ちよく利用できるようにご協力をお願い申し上げます。

2) 安心 安全の医療

患者さんが安心して医療を受けられるよう大学病院として常に努力しています。当院は、県内のどの病院よりも医療の安全確保のために人材と労力を投入しています。患者さんに見えないところまで気を配り、安心の確保に努めていますが、何か不安に思われることがありましたら、医療福祉サポートセンターへご相談ください。

3) 高度医療と先端医療を行うためのセンター化

患者さんにわかりやすい形で高度医療や先端医療を行うため、センター化を進めています。当院ではすべての診療科で先端医療を行っていますが、循環器センター、包括的脳卒中センター、膵臓・胆道センターでは、県内で唯一当院だけで実施可能な先端治療をたくさん行っています。

また、6月からがんゲノム医療が保険適応になりました。当院のがんゲノム医療推進センターでは、従来の治療では難しかった方や遺伝性のがんの方などに必要に応じて、がんゲノム医療を行っています。北陸で一人の遺伝カウンセ

セラールも在職し、遺伝相談を行っています。がんゲノム医療をご希望の方は現在通院中の先生にご相談して、ご紹介いただくようお願いいたします。外来化学療法センターでは、抗がん剤治療を行いながらの就労支援も行っています。ほかにも痛みセンター、総合的感染症センター、アイセンターなどがあり、4月から糖尿病センターもできました。これからもわかりやすく、トータルに患者さんの診療を行えるセンターを組織していきます。

2F		3F	
C 外来 Outpatients Reception		E 外来 Outpatients Reception	
D 外来 Outpatients Reception		35 集学的がん診療センター がん相談支援センター・がん相談ダイヤル	
循環器センター Cardiovascular Center		36 外来化学療法センター Chemotherapy Center	
脳臓・胆道センター Pancreas and Biliary Center		37 手術部 Surgical Operation	
24 医療福祉サポートセンター Medical Welfare Support Center		38 透析部 Dialysis	
25 採血受付 Blood Sampling Reception		39 集中治療部(ICU) Intensive Care Unit	
26 生理検査受付 Physiological Examination Reception		大会議室 Meeting Room	
27 輸血細胞治療部門 Division of Transfusion Medicine and Cell Therapy			
駐車場連絡通路 Parking			
ATMコーナー ATM Corner			

4) 地域医療を支え、病診連携を進めます

当院は県内唯一の特定機能病院です。これは、高度先進医療や急性期医療を行う病院という意味です。地域の医院や病院からご紹介をいただき、当院でしっかりと超急性期や急性期の医療を行い、病状が落ち着きましたら地域の病院に転院していただいたり、ご紹介元の医院に通院していただくという流れで治療を行っています。当院と連携している医院や病院は県内全域に、また飛騨、上越地域に広がっています。また、連携病院とは連絡を密にとり、転院後の患者さ

んの状態もフォローしています。これからは各病院が役割分担をしていく必要があります、これが富山県の地域医療を支えることに繋がります。当院の役割をぜひご理解いただき、地域医療を守っていきたいと思います。

最後になりましたが、たくさんのご厚志を富山大学附属病院支援基金にいただいております。この基金は附属病院の診療および院内環境の充実、医療スタッフの育成、医学研究の振興のために使わせていただきます。近いうちに院内に芳名板を設置させていただくことになりました。5万円以上のご寄付をいただいた方でご承諾をいただける方にはお名前を掲示させていただきますたく存じます。

これからも安心、安全の高度医療を提供していきますので、皆さまの温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくようお願い申し上げます。



糖尿病センター開設にあたって 「ひとりひとりの糖尿病患者さんに合った治療をめざして」

本年、4月より糖尿病センターが開設されました。糖尿病の患者さんは、食生活の変化と車社会による運動不足により増加し、国内では約1,000万人の方が糖尿病にかかっています。どの糖尿病の患者さんをとっても、病態や血糖値のコントロール状態、血管合併症の進行具合が異なっております。また、年齢やお仕事、生活も異なっているため、それぞれの患者さんに合った治療や生活指導が必要です。

糖尿病の分野では、近年新しい診断技術や治療が開発されてまいりました。例えば、ブドウ糖センサーを装着しておけば、採血しなくてもその場で検出装置をかざすだけで血糖値がわかる機器が開発されてきました。この機器では夜間、目をさまさなくとも血糖値が記録されます。また、低血糖をきたしにくく、肥満や血管合併症にもよい効果のある薬剤が開発され、糖尿病のコントロールは大きな進歩を遂げております。

糖尿病センターでは、先進的な糖尿病診療を患者さんに届けるとともに、全身にわたる血管合併症の管理のため、糖尿病の専門医だけでなく、心臓や脳血管、腎臓の専門医を含む院内の多くの専門医の協力により、患者さんの抱える全ての疾患、問題に適切に対応していきます。患者さんの生活に密着した生活習慣の改善指導をおこなうため、院内には40名を超える糖尿病療養指導士（糖尿病療養を専門に行う資格を有するコメディカルスタッフ）が、専門医の指導のもとチーム医療を実践しております。本年5月に富山県初の肥満の外科治療が当院で行われましたが、チーム医療で手術前後の患者支援を行ってまいりました。

糖尿病の診療の基本は、食事療法と運動療法であり生活習慣の改善であります。知らず知らずのうちに糖尿病を悪化させる生活に至っていないのかに気づくことが大切です。私どもは、魚介類の摂取量は日本で肥満度はさほど大きくないのに、糖尿病やメタボが多い富山県の状



糖尿病センター長
第一内科教授 戸邊 一之

況を「とやまパラドックス」と呼び、糖尿病センターではこの理論に基づいた生活習慣の改善指導とよりよい指導の開発のための研究を行っております。

糖尿病の方々が、健康長寿を享受できるようにセンター職員、力を合わせて頑張っております。相談にいらしてください。

とやまパラドックス問診票（抜粋）

1. 毎日どれぐらい歩いておりますか？
2. 夕食から就寝まで何時間ぐらいありますか？
3. 魚を食べる日は週に何回ぐらいありますか？
4. 間食はどのようなものを摂りますか？
5. 油ものを好んで食べますか？



糖尿病センターのロゴマークは、世界糖尿病デーのシンボルである「ブルーサークル」と富山県の県花であるチューリップ（花言葉は「思いやり」）を示します。3本のチューリップは「団結」「生命」「健康」を示します。思いやりの気持ちを持ち、団結して富山県の糖尿病診療を進めていきます。

新しい医療の開発に向けて ～臨床研究管理センターの活動～

2019年3月より臨床研究管理センターの特命教授を拝命しました中條と申します。臨床研究とは、「病気の新しい診断法や治療法を開発する」、「原因が分かっていない病気のデータを集めて病態を解明する」等を目的として、患者さんとともに行う研究です。当センターでは、臨床研究を法律や規則にしっかり則って、かつ活発に行っているように、臨床研究コーディネーターや事務スタッフとともに支援を行っています。また、当センターでは治験も担当しています。治験とは、製薬企業が開発した新しい薬剤を診療現場で広く使えるように国に承認してもらうための重要なステップです。これらの情報はホームページでも公開していますので(<http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/tiken/index.html>)、ぜひご参照いただき、ご協力をお願いいたします。

最近では、先進的な医療を実際に患者さんに提供し、その有効性や安全性を評価するための「特定臨床研究」の件数が当院でも増えていきます。例えば、私自身も専門分野の1型糖尿病に対して病気の進展を阻止するための新しい治療法を開発を行っています。また、診療科の先生



臨床研究管理センター
特命教授 中條 大輔

方と連携して、当院が得意とする希少疾患や難病をデータベース化して病態を解明しようという新しい試みも始まっています。

このような臨床研究の活性化に伴い、カルテ情報や研究データなどの医療データを取り扱う人材の育成も重要な課題となります。富山大学は、本年度より東京大学・筑波大学・自治医科大学と連携して、医療データを取り扱う人材育成を目的とした文部科学省の事業に参画することになりました。このような取り組みを通じて、当院の臨床研究のさらなるレベルアップに繋がればと考えています。

臨床研究管理センターでは、富山発の全国レベル、世界レベルの新たな医療の開発に貢献できるようにスタッフ一丸となって取り組んでいきます。



看護師特定行為研修センターのご紹介

看護師特定行為研修センターの開設

当院では、「特定行為」を行える看護師を養成するため「看護師特定行為研修センター」を開設し、2019年10月から「特定行為研修」を開始します。



特定行為とは

2025年に我が国の65歳以上の高齢者人口の割合は、30%を超すことが予想されます。それに伴い、病院や自宅などで医療を受ける方の数も増えていきます。一方で、一人の医師が関わることでできる患者の数や時間には限界があります。これまで医師が担ってきた医行為の一部を「特定行為」として看護師が行い、より適切なタイミングで患者さんへ医療を提供していく目的で特定行為制度が誕生しました。

国は、この「特定行為」ができる看護師の養成を推奨しています。現在、全国的にはまだまだ少ない状況にあり、富山県においても早急に数を増やす必要があります。

当院では、以下の内容について、10ヶ月かけ研修生を育てていきます。

*人工呼吸に関連すること

例) 患者さんの状態に合わせた人工呼吸器の設定変更など

*循環に関連すること

例) 血圧や尿量に関する薬の調整など

*点滴に関連すること

例) 脱水や栄養に関する点滴の調整など

皆さまのお役に立てること

研修を修了した看護師は、「手順書」と呼ばれる医師の指示書をもとに、特定行為（医行為の一部）を行うことができるようになります。例えば、医師がその場に不在であっても医師と事前の打ち合わせを行い、「手順書」にもとづいて患者さんへの処置などが早急に行えるようになります。

これは、学習を積み重ねてきた看護師であること、また、患者さんに寄り添う時間が長い看護師だからこそできる行為です。今後もこのような高い技術と知識を持った看護師が増え、より質の高い医療を提供できるようになることが期待されます。



“私たちは「高齢者医療の先進モデル病院」の実現を目指します！”
今年の春、上記目標をかかげ当院は大きくバージョンアップしました！

あさひ総合病院

Asahi General Hospital

朝日町は富山県内一の高齢化率で、その値は42%を超えました。

多くの町民の皆様が、生まれ育ったこの町を愛し、いつまでも自然豊かなこの地で人生の最後まで住み続けられるよう、当院は地域包括ケアを実践して参ります。

そのために医療はもとより、介護・予防・福祉事業とも連携することで、入院治療と在宅生活との間の移行を今まで以上に円滑に進めてまいります。

具体的には病棟再編として、病床数をこれまでの199床から109床へ集約しました。

医療スタッフを集約化することでより充実した診療を行います。4階に急性期病棟56床、5階に地域包括ケア病棟53床を配置し、急性期医療はもとより在宅復帰を目標とした回復期医療・リハビリテーションを早期から積極的に実施します。

高齢者は複数の併存疾患を有し、また、近年は生活環境として独居や高齢者のみの世帯が増えており、高齢者の医療や介護には多職種連携が不可欠です。

このため新たに6階には、朝日町在宅介護支援センターを院内に移設しました。また、高齢者で特に問題となる認知症やフレイル、ロコモティブシンドロームに対して、認知症院内デイサービス、認知症カフェ、ロコモセンターを新設し治療と予防にも対応してまいります。あわせて通所リハビリや訪問リハビリも積極的に行います。さらには、住民の皆様が気軽に集い語りあえる場を提供し、健常者も一緒に“みんなで地域を支え見守る”ためのアイデアを出し合いながら住民参加型の活動を予定して行きます。

今後、継続的に安定した医療を提供するため、職員にも魅力ある病院となれるよう教育・研修、資格取得、奨学金制度、福利厚生等もさらに充実させます。

4月1日からは、富山大学附属病院との間で寄附講座「朝日・地域医療支援学講座」を開設しました。内科常勤医師2名が増員となり、これまで以上に診療内容を充実し、在宅訪問診療等も積極的に展開致します。

当院どうぞご期待ください。



[病院名] あさひ総合病院
[病院長] 東山 考一
[所在地] 富山県下新川郡朝日町泊477番地
TEL.0765-83-1160 FAX.0765-82-0401
[休診日] 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

[診療科] 内科、胃腸科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科
[病床] 一般病床56床、地域包括ケア病床53床 計109床



食欲が減退する夏に向けての食事

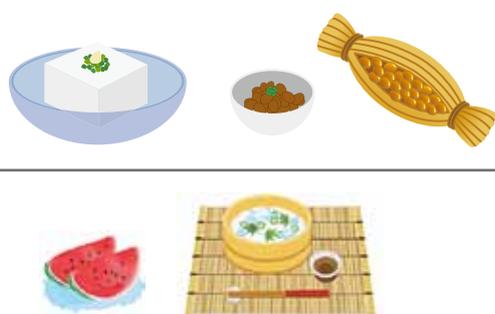
栄養管理室 室長 甲村 亮二

暑い夏は食欲が減退気味になります。夏はそうめんや冷や麦など炭水化物にかたよりやすくなるので、たんぱく質や汗をたくさんかくと失われるビタミン、ミネラルは意識して摂るよう心掛けたいものです。一般的にたんぱく質を多く含む食品は、肉、魚、卵、大豆製品、乳製品に代表されます。たんぱく質摂取に加え、炭水化物などを有効的に利用できる働きをするビタミンB1も摂るようにしましょう。多く含まれているものは豚肉や魚、大豆製品などです。また、ビタミンやミネラルの補給には野菜や果物を積極的に取り入れましょう。食欲増進には、しょうが、しそなどの香味野菜や、カレー粉などの香辛料を使うのも効果的です。酢やレモン、梅干しなどに含まれるクエン酸は疲労回復効果があるといわれています。冷たいものばかりを食べ続けると胃腸の働きが弱まります。加熱調理が難しい場合は電子レンジなどを上手に活用してみましょう。

動物性たんぱく質を多く含む食品



植物性たんぱく質を多く含む食品



読む
くすり箱

血液をサラサラにする薬には2種類あります。

薬剤部 副部长 小野 敦央

「血液をサラサラにするお薬飲んでいる人は、納豆禁止ですよ」と質問されたことがあります。納豆やビタミンKを多く含む食品が制限されるのは「抗凝固薬」のワーファリンだけで、他のお薬にその制限はありません。

お薬手帳等に「血液をサラサラにする作用があります。」と書かれたお薬には「抗凝固薬」と「抗血小板薬」の2種類あることはご存知でしょうか。

「抗凝固薬」は不整脈、心不全等により血液の流れが滞ってできる血栓（赤色血栓）を防ぐお薬です。赤色血栓は静脈や心臓、肺などで流れが滞った時に赤血球を巻き込んで固まったもので、大きくなりやすく、突然死の原因にもなります。一方「抗血小板薬」は生活習慣病に伴う動脈硬化で血管内のプラーク

がはがれたときにできる血栓（白色血栓）を防ぐお薬です。白色血栓は流れの速い動脈で出来るので赤血球などの大きな成分を含まず血小板が主体のため白色で、脳梗塞の原因となります。

「血液をサラサラにするお薬」ひとくくりで考えないで、どの疾患でどの薬を服用しているか一度ご確認いただくと治療への理解が深まると思います。

<お薬でわからないこと、知りたいことはお近くの病棟薬剤師まで！>



病院には医療ソーシャルワーカーがいます！



療養生活中は、身体のことはもちろんですが、体調に伴い生活をしていく中で様々な心配ごとが出てくる場合があります。医療ソーシャルワーカーはそういった心配ごとや困りごとなどについて相談を受け、解決のお手伝いをさせていただいております。



★退院時の援助

病院は機能分化し、病気が治るまでひとつの病院で過ごすことは難しくなりました。

退院のイメージづくり、状況に応じた退院の選択肢（病院や施設）の提案、退院後のサービスの紹介・調整など、退院にむけたさまざまな準備をご支援します。

例)

- ・入院前に比べ歩くことが難しくなった⇒リハビリ病院への転院調整、あるいは車いすなど福祉用具、自宅環境の調整し、安全に生活できる方法を考えます。
- ・産後、気持ちが落ち込んでいる、育児が心配。⇒地域の保健師さんと連携し、家に帰っても相談できる、見守れる体制をつくります。

★ゆっくり話をうかがいます

話し合う中から解決の糸口が見つかることがあります。「こうしたい」「こうありたい」をお話してください。

★情報提供によるサポート

各種制度、しくみがどうなっているか情報を集め、お伝えします。情報が手に入ると、どうしていくと良いかが見えてくる可能性があります。

★紹介・連携

病院の中で相談にのりきれない事柄については適切な機関や施設と連絡を取り合い、紹介します。

※公益社団法人 日本医療社会福祉協会HP引用

医療福祉サポートセンター【10番窓口】が窓口になっています。私たちは病院を超えて社会とつながるお手伝いをします。

病院からのお願い

立体駐車場3階をご利用される方へ

歩行困難者及び身体が不自由な方などから、歩行困難者用駐車スペースの不足について多数の意見をいただいています。

ついては、特に混雑する**午前7時～午後1時までは、立体駐車場3階全てを歩行困難者専用階**とさせていただきます。

ご利用の皆様が快適に使えるよう、ご理解とご協力をお願いします。

ご存知ですか「車いすマーク」

車椅子の方、身体が不自由な方などは、クルマの乗降に通常より広いスペースが必要です。両側にぴったりと他のクルマが駐車される状況では、そもそもクルマから降りることができません。そのために乗降スペースが確保された幅の広い駐車スペースに「車いすマーク」が使われています。

「障害者等用駐車スペースならば便利でラク」なのではなく、障害者等用駐車スペース以外では乗り降りできない状況にある方々がいることを、忘れないでください。



「フラワースマイルホスピタル」活動について

ボランティア同好会部長
薬学部薬学科3年 山岸 奈央

私たち杉谷キャンパスボランティア同好会は、富山大学医学部及び薬学部の学生が主となりボランティア活動を行うサークルです。例年、富山大学附属病院のロータリーの周辺に花を植える「フラワースマイルホスピタル」という活動を行っています。この活動は、花を植えることで病院の周辺環境を明るくし、病院を訪れる患者様とご家族、また、病院関係者の方々、学生の方などロータリーの前を通るすべての方を笑顔にしたいという気持ちから行っている活動です。

今年はミニひまわりを咲かせる予定です。部員だけではなく、部員以外の杉谷キャンパスの学生にも協力してもらい、毎日交

代で水やりを行っています。水やりをしていると、「いつもご苦勞様です」と声をかけていただくこともあり、とてもありがたく、また、嬉しく思っています。これからも元気に育ち、無事花が咲く日を楽しみにしながら、ひまわりのお世話を続けていきたいです。そして、花が咲いたら、多くの方に見ていただけると嬉しいです。



梅雨空に想うこと



副病院長 鈴木 道雄

梅雨の湿気の中に時折のぞく陽射しが強さを増し、暑い夏が間近であると感じられます。

4月から副病院長を務めています神経精神科の鈴木と申します。

働き方改革の波は医療の現場である病院にも押し寄せています。大学病院で勤務する多くの医師の労働時間は大変長いので、私たちはこれから時間外勤務を大幅に短くしていくことを求められています。しかし、医学・医療は日進月歩であり、

新しい診断や治療技術をいち早く臨床の現場で生かしていくことは私たちの責務です。また、地域医療において私たちが取り組むべき課題もたくさんあります。その中で働き方改革を実現していくことは、大変難しい課題であると感じています。

しかし、何はさておき、職員一同が常に診療の質の向上に努め、皆様が安心してかかることのできる富山大学附属病院であり続けたいと思っています。

学び育つ医師とともに



副病院長 中辻 裕司

みなさま、こんにちは。若い新人医師の臨床研修、教育を担当する卒後臨床研修センターのセンター長を務めさせていただいている中辻です。

この春から医師のフレッシュマンが新たに21名富山大学附属病院で初期臨床研修医として研修を開始しています。皆さんスクラブという半袖紺色の上着を着て一生懸命に院内を動き回っていますのでお分かりになるかと思います。各診療科をローテーションしながら、それぞれの科の先輩医師や私たちスタッフから学び、指導されながら、将来の富山県の医療を支えてくれる人材に育ってゆくはずです。中には全国に羽ばたいてゆく医師

の卵もいます。私たち医療者は基本的に患者さんから多くのことを学んでそれを再度患者さんへ還元できるように日々研鑽しているわけですが、特に若い医師はゼロから一つ一つ患者さんより学びながら育ちます。入院されている患者さんは、ベッドサイドに研修医が来たときは、また外来診療室で見かけたときはどうぞ温かく見守って、時にははっぱをかけてあげてください。それを大きな肥やしとして、よりみなさんの役に立てる医師になってゆくとと思います。

これからも当院をどうぞよろしく願います。

編集後記

ある辞書によると、『信頼』とは、信じて頼りにすること。信用して任せること。また、その気持ちとある。信じるためには、過去の実績や確かな業績が必須であろう。病院においては、重みのある言葉に違いない。確かな医療を受けたい気持ちに対して、正確に診断すること。エビデンスのある治療を提供で

きる。先端治療の現状を説明できること。そして、誠実に対応すること。『信頼できる素晴らしい病院だなあ〜』と多くの富山県民（もちろん県外の方も）に求められる大学病院であり続けたいものである。

広報委員 米田 哲

病院までのアクセスについて(2019年7月現在) ※詳しくは、各交通事業者へお問い合わせください。

交通機関をご利用の場合

[富山駅より]富山地鉄バス(3番乗り場)で30分
[呉羽駅より]呉羽コミュニティバスで20分

[小杉駅より]小杉駅富大病院エクスプレスで20分
[富山空港より]タクシーで20分

小杉駅南口⇄富山大学附属病院 小杉駅富大病院エクスプレス

富山大学附属病院では、県西部にお住まいの方のご来院の際に利用できるように大学が経費を負担し、富山大学都市デザイン学部都市政策ユニットと協力して、あいの風とやま鉄道小杉駅と附属病院を結ぶ路線バス「小杉駅富大病院エクスプレス」を運行しています。



時刻表(平日のみ) Timetable (Weekdays)

小杉駅発		K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8
あいの風	高岡発	7:35	8:01	8:20	8:38	9:29	10:08	11:14	12:48
とやま鉄道	小杉着	7:44	8:10	8:28	8:45	9:37	10:15	11:23	12:56
射水市	小杉駅南口 Kosugi Station	7:50	8:15	8:45	9:05	9:45	10:35	11:35	13:15
	県立大学前	7:55	8:20	8:50	9:10	9:50	10:40	11:40	13:20
	バスコ前	7:56	8:21	8:51	9:11	9:51	10:41	11:41	13:21
	小杉南中学校前	7:57	8:22	8:52	9:12	9:52	10:42	11:42	13:22
	天池公園前	7:57	8:22	8:52	9:12	9:52	10:42	11:42	13:22
	南太閤山 12 丁目	7:58	8:23	8:53	9:13	9:53	10:43	11:43	13:23
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
富山	古沢南部	8:11	8:32	9:02	9:22	10:02	10:52	11:52	13:32
山	杉谷口	8:12	8:33	9:03	9:23	10:03	10:53	11:53	13:33
市	富大附属病院 University Hospital	8:13	8:34	9:04	9:24	10:04	10:54	11:54	13:34
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
射水市	富大附属病院 University Hospital	8:20	8:40	9:10	9:40	10:10	11:00	12:00	13:50
	山 杉谷口	8:21	8:41	9:11	9:41	10:11	11:01	12:01	13:51
	市 古沢南部	8:22	8:42	9:12	9:42	10:12	11:02	12:02	13:52
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	南太閤山 12 丁目	8:31	8:51	9:21	9:51	10:21	11:11	12:11	14:01
	天池公園前	8:31	8:51	9:21	9:51	10:21	11:11	12:11	14:01
	小杉南中学校前	8:32	8:52	9:22	9:52	10:22	11:12	12:12	14:02
	バスコ前	8:33	8:53	9:23	9:53	10:23	11:13	12:13	14:03
	県立大学前	8:34	8:54	9:24	9:54	10:24	11:14	12:14	14:04
	小杉駅南口 Kosugi Station	8:39	8:59	9:29	9:59	10:29	11:19	12:19	14:09
あいの風	小杉発	8:49	9:11	9:53	10:22	10:56	11:38	12:36	14:24
とやま鉄道	高岡着	8:57	9:19	10:01	10:31	11:03	11:46	12:44	14:32



富山大学附属病院 → 富山駅前

バス簡易時刻表



富山駅前発 始発:7時30分 最終:21時15分
●約30~40分おき ●19時以降/約60分おき



富山駅前発 始発:7時30分 最終:21時10分
●約60分おき
●8時/約30分おき

富山駅前 → 富山大学附属病院



富山駅前発 始発:7時00分 最終:20時45分
◎富山駅前バスターミナル 3番のりば
●約30~40分おき ●16時、19時以降/約60分おき



富山駅前発 始発:7時00分 最終:20時40分
◎富山駅前バスターミナル 3番のりば
●7時、16時/約30~50分おき
●8時以降/約60分おき

呉羽駅⇄富山大学附属病院 呉羽コミュニティバス

通常便

呉羽駅	8:20	10:40	13:00	15:20	17:40	18:50
富山大学附属病院	8:41	11:01	13:21	15:41	18:01	19:11
呉羽駅	9:25	11:45	14:05	16:25	18:45	19:55

古洞の森・三熊経由便

呉羽駅	9:30	10:50	14:10	16:30
富山大学附属病院	9:47	12:07	14:27	16:47
呉羽駅	10:35	12:55	15:15	17:35



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。